21年度『まなこ』年間テーマ

身近なことから始めよう！

「無理かな」とあきらめずに、やれることから始めてみませんか？
女性でも男性でも、年齢にかかわらず、社会の中で自分らしく輝きたいですね。

Challenge!

自分で自分の仕事をつくる

～新しい働き方、見つけてみませんか？～

景気が低迷し、厳しい雇用状況が続いていますが、一方、働き方の多様化が進み、さまざまな選択肢が出てきました。
実際に動き始めた皆さんにお話を聞きながら、働き方について一緒に考えてみましょう。

「やりがい」
「経済的自立」
「社会貢献」
働く目的は人それぞれ。
自分の能力や経験をいかして
いきいきと働く人が増えると、
地域や企業も刺激を受け、
社会が活性化していきます。
子育て中でも、
キャリアのブランクがあっても、
リタイア後でも、
チャレンジしてみませんか？

起業家

「誰かの役に立つ」という実感

Studio HAGA 芳賀裕子さん（50歳・中町）

芳賀さんは家族と共に10年間を海外で過ごし、40代後半でお片づけコーチング®事業を立ち上げた。『まなこ』レポーター渡邊さんと仕事場を訪ねた。

子どもの誕生、バリアフリーへリフォームするための物の整理……。ライフステージが変われば、生活空間を再構築しなければならない。そんな時、芳賀さんの仕事が大活躍する。お客さんの悩みや要望を聞き、不用品の分別や要不要の判断、アドバイスなど仕事は多岐にわたる。

18年間の専業主婦から、もう一度社会に出たいと考えた芳賀さんは「この年齢になって働くからには、単にお金のためだけにはしたくなかった」という。それはよくいわれる「自己実現」という言葉では表現しきれないものだった。図書館で書籍整理の仕事をしながら求職活動もし、事務の仕事が内定した。しかし夫に「残された人生の中で本当にそれがやりたいことなの？」と問われ、もう一度自分の洗い出しをした。そして、図書館で学んだ分類や整理の仕事が、自分には向いていることを再認識した。「得意分野で社会の役に立ち、正当に対価を得る」というあえて難しい目標を課し「片づけのプロ」としてスタートした。

きめ細やかな仕事で定評がある芳賀さんの仕事。幅広い年代・分野から仕事の依頼がある。今後は、年を重ねても安心して暮らせるための提案や啓発、また、多方面の機関と連携した地域システム作りなどにも取り組んでいきたいそうだ。

自ら起こした仕事で働くことは、苦労も大きいが喜びもダイレクトだ。「働くことの原点は、誰かの役に立つこと」。芳賀さんの考えはシンプルで強い。［取材・文　林直子］

© 小学館

「まちづくり三鷹 SOHO ビジネスプランコンテスト2007 準グランプリ」を受賞しました

Studio HAGA
http://www.studio-haga.com/
TEL：43-9908

『こんどこそ！「捨てる」技術！収納のきほん おさらい帖』小学館

得意なことをいかして

「まなこ」レポーター　渡邊絵里さん

芳賀さんの仕事は、片づけから発展して心の整理や人生の整理につながります。「誰かのために役に立っている実感こそ働くことの原点」そして「起業の楽しさ」という芳賀さんの言葉は、長い主婦業の経験から生まれたものだと思いました。自分の得意なことを見つめ直して仕事にし、社会に貢献する姿が素敵でした。

ネットショップ

大好きな物づくりをいかして

布おむつのお店「kucca」諸井更絵子さん（30歳・桜堤）

小さな子どもを抱えながら、ネットショップを開業した諸井さん。ホームページをのぞくと、そこにはやさしい色合いのおむつカバーや布おむつが並んでいる。

'09年IT企業を退職した諸井さんは、8月に布おむつのネットショップ「kucca」を開店した。いつかは何かを始めたいと思っていた。販売方法が手軽なことと資金面からネットショップを選んだ。物を作るのが好きだったので、自分で作ったものを売りたかった。

布おむつを選んだきっかけは、2歳の息子さんが赤ちゃんの頃、紙おむつを使うとよくかぶれたことだった。布おむつのメリットは肌に優しいことだ。

商品の型紙作製は、友人にお願いした。手書き風のロゴは、退職した会社の同僚のパートナーに作ってもらった。ホームページ制作も友人にアドバイスを受けた。

通勤がないので、その分家事や育児の時間が取れる。掃除をしながら、メールのやり取りをしたり、商品発送をしたりする。ひらめきをいかした新商品の開発も、少しずつ進んでいる毎日だ。［取材・文　寺谷洋子］

店主ブログ「布おむつで楽しく育児」では、商品に対する愛着や子育て中の日常をつづっています

kucca
布おむつのお店「kucca」
http://www.kucca.jp/

●ネットショップを始めるには？

ネットショップの利点は、実店舗を持たないのでコストが安くすむことや、地理的な制約を受けないことである。開業するのに最低限必要なものは、商品・パソコン・デジタルカメラ・インターネット回線だ。

〈出店方法例〉

自社サイト　格安で開業できる。ある程度のIT知識が必要。

ショッピングモール出店　集客力がある。テナント料等の固定費がかかる。

ドロップシッピング　業者から直送させるので、在庫なしですむ。仕入れを行わないため利益率が低い。

開業するのは簡単だが、消費者に多数のネットショップの中から自分の店を選んでもらうにはかなりの努力が必要だ。例えば、検索エンジンの対策、サイトの頻繁な更新や新商品の紹介、豊富な商品知識を持つことなどだ。

社会起業家

誰もが働ける社会にしたい

ネット古本屋「浩仁堂」直志浩仁さん（43歳・小金井市）

精神障害者の雇用をめざし、ネット古本屋を起業した社会起業家、直志浩仁さん。『まなこ』レポーター開地さんと武蔵境の事務所を訪ねた。

社会福祉士として精神障害者の施設に勤めていた直志さんは3年前、家計の足しにと、仕入れた古本を大手ネット書店で販売する副業を始めた。文字通りパソコン一台からのスタート。一方、充分働ける人でも精神障害者というだけで雇用の壁は厚く、作業所ではひと月働いても月収8千円。その矛盾に、直志さんは副業の売上げが月30万円になった時に「自分が独立して雇おう」と思い立つ。

現在、元職場と連携して5人の障害者が本のデータ入力作業にあたる。近隣の4施設には古本の回収、本のクリーニング作業を委託している。

自営としてはなんとか軌道にのせた。が、今後、障害者をアルバイト、正社員として雇用していくには事業拡大が不可欠。そのため今年度中に法人化、4月に武蔵境に出店し、一般客からの本の買い取りの拠点とする計画だ。

「精神障害者だって工夫次第で充分に働ける。利益も追求できることを社会にアピールしたい」。そのために、社会福祉法人ではなく株式会社としての法人化を考えている。また、その資金を金融機関からの借り入れではなく、市民債権方式で集めようと、趣旨に賛同してくれる人たちに呼びかけている。知人を中心に支援の輪は徐々に広がりつつある。［取材・文　清原理恵］

本、CD、DVDを提供してください。大手新古書店よりずっと高く買い取ります

浩仁堂
武蔵野市境1-11-5-103
TEL：080-6614-4970　FAX：26-1258
http://www.kojindo.jp/

●社会起業家

環境や人権、福祉、教育など、行政サービスだけでは解決できない地域や社会の課題を、新しい発想で、ビジネス的手法により解決し、社会を変革しようとする人たちのこと。「社会貢献」を理念としながらも、公的な機関に頼らず、継続的な事業収益をあげて活動の持続性を獲得しているのが特徴。近年の厳しい経済環境、社会環境のなかで、「新しい働き方」としても注目されている。

障害者は働けることを証明したい！

「まなこ」レポーター　開地京子さん

まず、事務所で、驚いたのがパソコンの数量と、仕事の手際の良さです。狭い空間の中で、古本のデータを的確に入力し、効率よく仕事をされていて、しっかりとした戦力として根づいていると思いました。

お話の中で、利益の出せる団体として営利企業を目指し、障害者が働けることの証明をしたい！と言われたことが心に残っています。